

## 研究活動報告

### 特別講演会 (国際セミナー)

#### 子育て世代のワーク・ファミリー・バランス—どうすれば育児におけるジェンダー平等が進むのか— (Work-Family Balance of Families with Small Children: How to Achieve Gender Equality in Parenting)

2015年9月3日(木)午後2時より「子育て世代のワーク・ファミリー・バランス—どうすれば育児におけるジェンダー平等が進むのか—」と題した特別講演会(国際セミナー)が開かれた。参加者は98名で盛況であった。本イベントでは、男性の育児へのコミットメントを高め、男女双方が仕事と家庭を両立でき、人として尊厳あるバランスのとれた生活を実現するための有効策を探ることを目指し、ワーク・ライフ・バランスの実現度が高いとされる、スウェーデン、オランダ、ドイツの3カ国から第一線で活躍する専門家を招いて、各国の子育て世代の仕事と家庭生活を取り巻く状況についての講演がなされた。

3名の講演に先立ち、森田朗氏(国立社会保障・人口問題研究所所長)による開会の挨拶、および本セミナーを共催した科研プロジェクトの研究代表である高橋美恵子氏(大阪大学)による趣旨説明がなされ、同プロジェクトの分担研究者でもある釜野から、「3カ国のワークライフバランスをめぐるコンテキスト」として、これらの3カ国および日本を含むいくつかの国の比較データが示された。メインパートである講演は、以下のとおりである。

1. 「ドイツの父親支援—ジェンダー平等・ワークライフバランス・子ども福祉に関する政策課題」(エバーハルト・シェイファー氏, ベルリン父親センター代表) (“Supporting Fathers: An issue for gender equality, work-life and child wellbeing policies” Eberhard Schaefer)
2. 「オランダ社会にみる仕事と家庭の両立とケパビリティ—稼ぎ手1.5型モデルを超えて」(ローラ・ドゥルク氏, エラスムス・ロッテルダム大学行政学科准教授) (“Capabilities to combine work and family life in the Netherlands: Moving beyond the one-and-a-half earner family?” Laura den Dulk)
3. 「父親とワークライフバランス—政策はどのような違いをもたらすのか—国家とその先を見すえて」(バーバラ・ホブソン氏, ストックホルム大学社会学科教授) (“Fathers and Worklife balance: Looking beneath and beyond the state” Barbara Hobson)

質疑応答の後、金子隆一氏(国立社会保障・人口問題研究所副所長)の挨拶によって締めくくられた。

3名の講演と質疑応答は英語で行われ、逐次通訳がついた。司会は科研プロジェクトの分担研究者である松田智子氏(佛教大学)がつとめた。なお、本セミナーは、平成24年度~27年度科学研究費補助金(基盤研究(B) 課題番号:24330153)の助成による「グローバル化時代の日本男性のワーク・ファミリー・バランスに関する研究」(研究代表者:高橋美恵子・大阪大学, 研究分担者:釜野さおり・国立社会保障・人口問題研究所, 斧出節子・京都華頂大学, 松田智子・佛教大学, 善積京子・追手門学院大学)の一環として、社人研との共催で実施されたものである。(釜野さおり 記)